

羽田空港再拡張・国際化について

1. 羽田空港再拡張事業について

国土交通省は、首都圏における将来の航空需要の増大に対応するため、羽田空港に新たに4本目の滑走路を新設し、年間発着能力を現在の29万6千回から40万7千回に高めるとともに、国際定期便を就航させることとしています。

本事業については、千葉県との補償交渉に時間を要したことから、当初の予定より1年遅れの平成19年3月30日に現地着工し、概ね1年遅れの工程ではありますが、平成22年(2010年)10月の供用開始に向け順調に進捗しております。

平成19年度は、国土交通省が埋め立て部の地盤改良や棧橋部の構造物の設置などの工事を推進しましたが、平成20年度も、引き続き工事を推進することとなっております。

また、PFI事業により国際線地区旅客ターミナルビル等整備事業などを進めております。

<滑走路整備事業について>

事業概要：東京国際空港D滑走路及び連絡誘導路新設並びに東京港第一航路移設に係る設計及び施工を行う。

事業費：5,985億円

契約の相手：ゼネコン15社によるJV（鹿島建設（株）、（株）大林組など）

<国際線地区旅客ターミナルビル等整備・運営事業について>

事業概要：PFI手法により、ターミナルビル等を設計、施工管理し、事業期間終了まで対象施設を所有するとともに、維持管理及び運営業務を実施する。

期間：30年間（平成18年7月7日 事業契約締結）

契約の相手：東京国際空港ターミナル（株）（HK Tグループが設立した特別目的会社）
（日本空港ビルディング（株）、（株）日本航空、全日本空輸（株）、
成田国際空港（株）、東京電力（株）、京浜急行電鉄（株）など）



2. 羽田空港国際化に関する考え方

(1) 本市の基本的考え方

日本経済を支える首都圏と成長著しい東アジア諸都市との相互アクセスの強化は不可欠であり、羽田空港の真の国際化を実現すべき。

- ・遠距離国際線は主に成田空港が担い、近距離国際線は主に羽田空港が担う
- ・両空港に乗り継ぎ需要に応じた国内線を適切に配置
- ・就航範囲は、ASEAN諸国を含む東アジア主要都市をカバーできる圏域

(2) 国の考え方

経済財政諮問会議（平成20年5月）において、冬柴国土交通大臣が公表した考え方では、再拡張事業後の羽田空港の国際定期便の就航について、次のとおりとしています。

- ・年間発着回数：供用開始時に、昼間時間帯3万回
※深夜早朝時間帯と合わせ、合計6万回の国際定期便枠
- ・路線：羽田にふさわしい近距離アジア・ビジネス路線として、ソウル、上海等の都市、更に、北京・台北・香港まで就航する。

<参考> 国土交通省では、従来、国際定期便の就航について、次のとおりとしていました。

アジア・ゲートウェイ構想（平成19年5月）

- ・年間発着回数：供用開始時に、国際旅客定期便を3万回就航させる。
- ・路線：これまでの距離の基準（羽田発着の国内線の距離≒2,000km（羽田＝石垣間は1,947km））だけでなく、需要や路線の重要性も判断し、羽田空港にふさわしい路線を、近いところから検討する。

3. 再拡張事業に対する無利子貸付について

羽田空港の再拡張・国際化は、市民の海外渡航の際の利便性を高めるばかりでなく、本市の国際集客力の強化や横浜経済の活性化に大きく寄与することが期待されます。そのため、羽田空港再拡張事業が円滑に推進されるよう、「東京国際空港における緊急整備事業の円滑な推進に関する特別措置法」に基づき、滑走路等の整備費の一部として、神奈川県・川崎市とともに、国に対して100億円を上限に、複数年度で無利子貸付を行うこととしています。

一方、これまで、本市は、同法に定める国際航空運送事業に係る航空機の定期的な運行の確保という趣旨を踏まえた、国際化のより一層の進展を期待し、真の国際化を実現すべきであると再三、国土交通省に要望してきたところであります。しかし、真の国際化に向けた進展が見られないことから、平成19年度分の貸付については、留保することとし、3月26日に国土交通省に対し、文書で通知いたしました。

羽田空港の国際化については、平成20年第1回市会定例会において、地方自治法第99条に基づき、「羽田空港の再国際化に関する意見書」を可決いただきました。

本市としましては、引き続き、真の国際化の実現に向けて国に働きかけてまいります。

<今後のスタンス>

19年度に留保した24億5,500万円、及び20年度予算に計上された18億5,700万円については、今後、羽田空港の真の国際化に向けた国の考え方を見極めた上で、貸付について判断していきます。

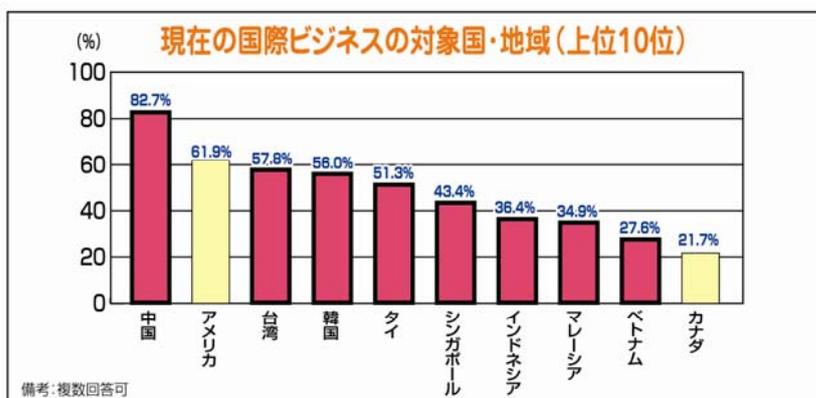
<参考>年度別無利子貸付額

(単位：百万円)

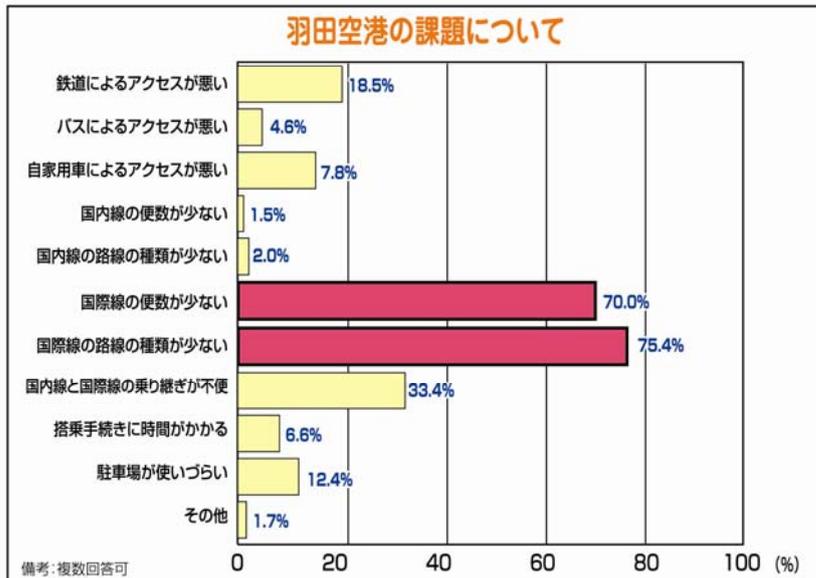
年 度	1 7	1 8	1 9	2 0
貸付額	9 1 7	2, 3 1 2	2, 4 5 5	1, 8 5 7
累 計	9 1 7	3, 2 2 9	(5, 6 8 4)	(7, 5 4 1)
備 考	18年3月貸付	19年5月貸付	19年度予算額	20年度予算額

※貸付金総額の上限は100億円

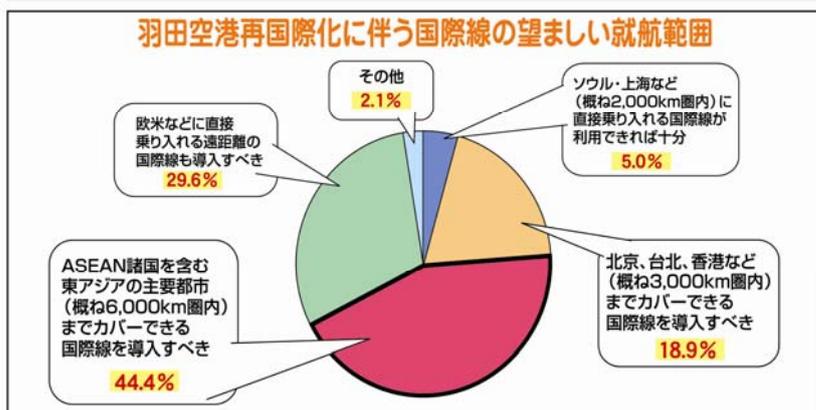
<参考>首都圏の空港に関する企業へのアンケート結果



上位10位のうち、
8つの国・地域が
東アジア!



羽田空港の
主な課題は、
国際線の路線・
便数の少なさ!

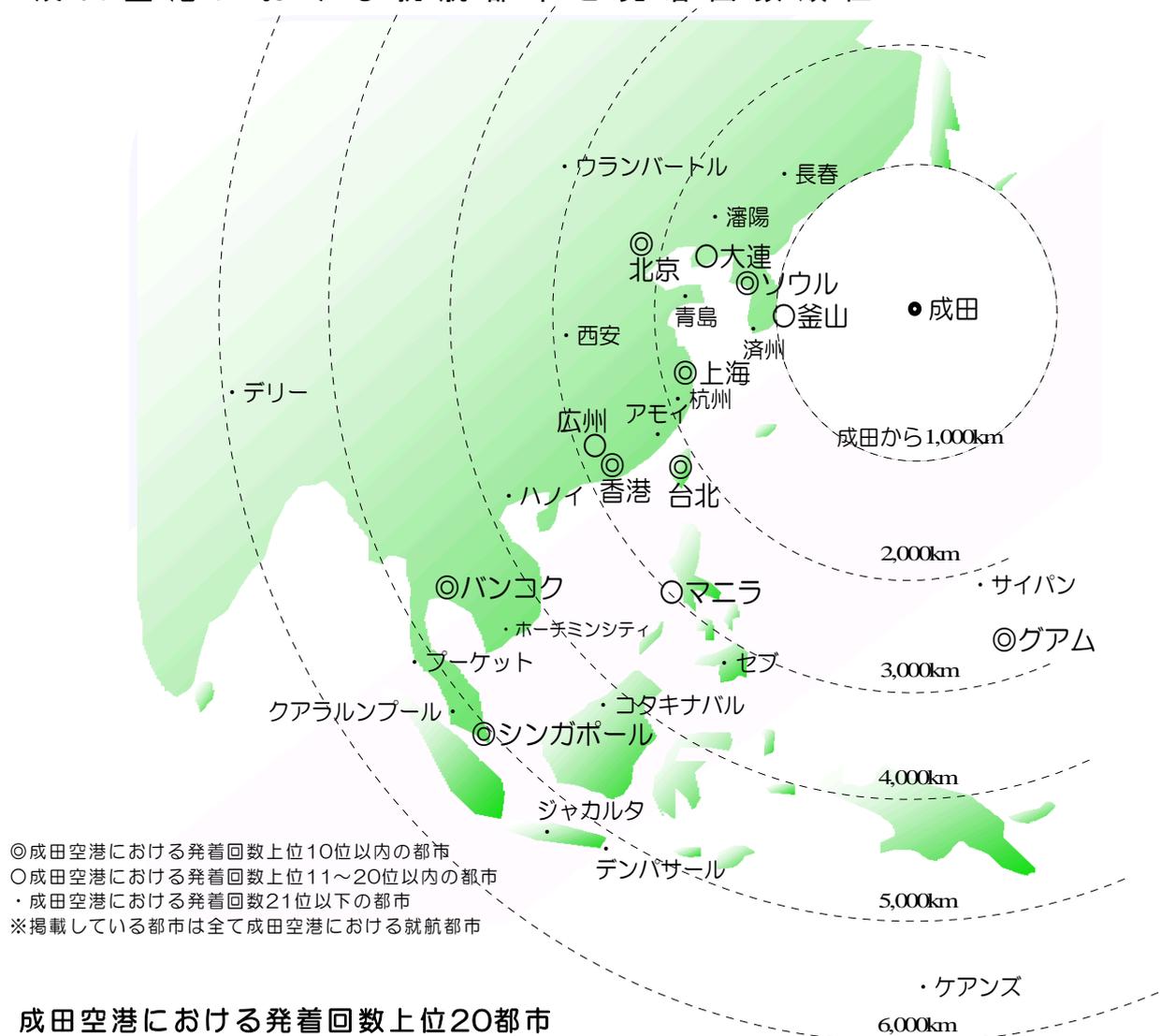


最も望ましい
就航範囲は、
6,000キロ圏!

平成18年6月横浜市実施
調査対象：首都圏に本社を置く資本金
5億円以上の企業2075社
回答企業数：430社

[参考]

成田空港における就航都市と発着回数順位



成田空港における発着回数上位20都市

順位	国名	都市名	距離(km)	発着回数/年	順位	国名	都市名	距離(km)	発着回数/年
1	中国	上海	1,776	10,316	11	フランス	パリ	9,930	3,855
2	韓国	ソウル	1,214	10,212	12	中国	広州	2,915	3,647
3	台湾	台北	2,128	9,586	12	アメリカ	サンフランシスコ	8,210	3,647
4	中国	香港	2,915	8,753	15	アメリカ	シカゴ	10,058	3,647
5	タイ	バンコク	4,589	8,128	15	アメリカ	ニューヨーク	10,779	3,230
6	中国	北京	2,101	6,148	16	フィリピン	マニラ	3,006	2,918
7	シンガポール	シンガポール	5,298	5,835	16	イギリス	ロンドン	9,952	2,918
8	アメリカ	ホノルル	6,130	5,627	18	中国	大連	1,667	2,292
9	アメリカ	ロサンゼルス	8,722	5,210	19	韓国	釜山	987	2,188
10	アメリカ	グアム	2,498	5,106	19	ドイツ	フランクフルト	9,485	2,188

- 平成19年1月JTB時刻表を参考に横浜市作成
- 発着回数=(便数/週)×2÷7×365として算出
- 網掛けは、韓国、中国、台湾、ASEANの各国・地域